



みえを歩こう

伊勢街道に息づく伝統産業

鈴鹿市 白子地区

四日市市の「日永の追分」で東海道と分かれて南へ向かい、現在の鈴鹿市白子地区（江島・白子・寺家）などを経て伊勢へと至る道筋は、伊勢街道と呼ばれます。『参宮街道』とも称される街道は、江戸時代を通して伊勢参りの人々で賑わい、多くの物資や情報が行き交いました。

今回は、伊勢街道に沿って続く白子地区を中心に歩きます。かつての繁栄の面影を残す神社や、伝統産業発祥にまつわる物語が伝わる名刹に加えて、伝統産業を見学・体験できる施設もあり、充実した時間を過ごせることでしょう。

取材・文：中村 真由美

廻船業で繁栄した白子港

今回の散策は、近鉄「白子」駅東口から始まりますが、その前に立ち寄りたいのが、同駅西口近くの「鈴鹿市観光案内所」です。地図やパンフレットなどが揃つており、必要な情報を得ることができるでしょう。

案内所を後にして、駅の東口から北東へ向けて15分程度歩くと、松林に守られるようにたたずむ神社が姿を現しました。海上安全と安産の神様として信仰を集める、江島若宮八幡神社です。江戸



江島若宮八幡神社



文政3(1820)年に寄進され、かつては灯台の役目も果たしていた常夜燈



伊達家住宅



「伊勢型紙資料館」(TEL059-368-0240)

時代成立の『伊勢参宮名所図会』で「繁昌の湊なり」と紹介されたように、白子港一帯には廻船業者などの問屋が建ち並んでいたといいます。同神社には、こうした業者が奉納した絵馬が多数保存されています。71面が県の有形民俗文化財に指定されています。なお、事前予約で、絵馬の見学が可能です。

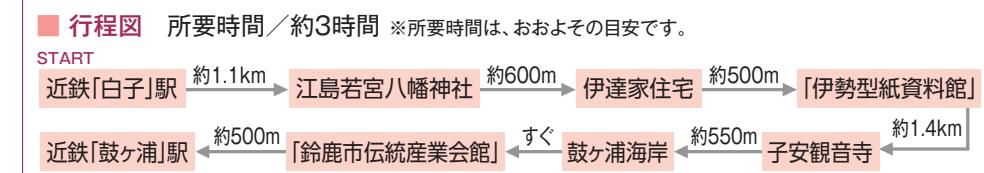
江島若宮八幡神社と、近くに建つ大きな常夜燈に別れを告げて、神社の西側を通り、南へと進みます。この道が伊勢街道で、ところどころで連子格子の家を見かけました。その中で存在感を放っていたのが、軒下に「油屋忠兵衛」と掲げられた建物。江戸時代には肥料・油・米などを商う廻船問屋だった伊達家住宅で、主屋は国の登録有形文化財になっています。

「伊勢型紙資料館」

伊勢街道から一時離れて、次に訪ねたのは「伊勢型紙資料館」です。同館は、白子屈指の型紙問屋だった寺尾家の住宅を修復して、平成9(1997)年に開館。関連資料を無料で公開しています。「伊勢型紙」とは、着物などの文様を染める



お話を伺ったのは、子安觀音寺(白子山觀音寺)住職の後藤 泰成(たいせい)さん。伊勢型紙発祥にまつわる物語や、最近復活した「富貴絵(ふきえ)」について詳しく教えていただきました。



ために用いられた型紙のこと。和紙を柿渋で加工した型地紙に、彫刻刀で彫られた精緻な文様は人々を魅了し、着物文化の中で大きな役割を果たしました。なお、この文様を彫るには高度に熟練した技術と根気・忍耐力を要します。平成5年（1993）年には「伊勢型紙技術保存会」が国の重要無形文化財保持団体に認定され、技の保持・伝承が続けられています。

子安觀音寺と、復活した「富貴絵」

「伊勢型紙資料館」に立ち寄った後は再び伊勢街道に戻り、次は「伊勢型紙」発祥に関わるという子安觀音寺をめざします。



地域住民が何度も建て直し、今では町のシンボルとなっている道標

ます。途中で「さんぐう道」などと刻まれた道標に案内されて釜屋川を渡り、西へ方向を変えると、堂々とした赤い門が現れました。元禄16（1703）年に建立された同寺の仁王門で、県の文化財に指定されています。「伊勢型紙」発祥の物語が伝わるのは、境内に枝を広げる「不斷桜」で、中でも有名な話が、久太夫という翁が虫食いの葉の模様に感得したのが始まりというものです。



子安觀音寺の仁王門

で同寺を後にします。仁王門から南へと続く道が、磯山へと向かう伊勢街道ですが、今回は東へ進みます。すると、マツの大木が生い茂る海岸が目の前に現れました。このあたり一帯が鼓ヶ浦海岸で、散策などを楽しむことができます。なお、子安觀音寺の本尊が、この海から鼓に乗って現れたことから、その名が付いたと伝わります。



「鈴鹿市伝統産業会館」(TEL059-386-7511)

各建物などが彫られています。大きさや文様は異なるものの、「伊勢型紙」と似ていることに気付きます。同寺の周囲には、多くの型紙職人が住んでいましたが、かつてはこの職人たちが「富貴絵」も制作して販売していたのだと教わります。両者ともに発祥に関して確実なことは不明ですが、この「富貴絵」が元となつて「伊勢型紙」へと発展したのだと思われます。



「富貴絵」

から南へと続く道が、磯山へと向かう伊勢街道ですが、今回は東へ進みます。すると、マツの大木が生い茂る海岸が目の前に現れました。このあたり一帯が鼓ヶ浦海岸で、散策などを楽しむことができます。なお、子安觀音寺の本尊が、この海から鼓に乗って現れたことから、その名が付いたと伝わります。



「鈴鹿市伝統産業会館」(TEL059-386-7511)

きやミニ色紙彫刻体験などもできます。それぞれに予約方法、料金、所要時間が異なるため、都合に合わせて事前に確認するとよいでしょう。

「鈴鹿市伝統産業会館」から近鉄「鼓ヶ浦」駅までは徒歩約10分の距離。伊勢街道沿いに息づく歴史や伝統産業を巡る散策はこれで終了です。

鼓ヶ浦海岸から

「鈴鹿市伝統産業会館」へ

白子地区と同寺の深い関わりなどを住職に教わった後は、名残惜しい気持ち

で同寺を後にします。仁王門から南へと続く道が、磯山へと向かう伊勢街道ですが、今回は東へ進みます。すると、マツの大木が生い茂る海岸が目の前に現れました。このあたり一帯が鼓ヶ浦海岸で、散策などを楽しむことができます。なお、子安觀音寺の本尊が、この海から鼓に乗って現れたことから、その名が付いたと伝わります。

白砂青松の海岸を眺めた後は、近くの「鈴鹿市伝統産業会館」へ向かいます。

同館では、毎週日曜日には「伊勢型紙」、第2・第4日曜日には「鈴鹿墨」の実演を行っていて見学が可能です。「鈴鹿墨」の歴史は古く、8世紀にまで遡るとも伝わります。江戸時代になり、上質な墨が必要になったことや、紀州藩の保護もあり、急速に発展を遂げました。現在は、経済産業大臣指定の伝統的工芸品として、その技が受け継がれています。また、同館ではしおり彫刻体験に加えて、はが

問 一般社団法人 鈴鹿市観光協会

（月曜日定休）

TEL 059-386-05595

子安觀音寺（白子山觀音寺）

※印の写真は取材先から提供していただきました

天平勝宝年間（749～757）に聖

武天皇の勅願

所として創建

された同寺の

ご本尊は、百

衣觀世音です。

古くから安

産・子育ての

靈場として知

られ、参拝者

も多くの訪れます。

したが、参拝

記念のお土産

として売られ



子安觀音寺本堂内部



「不斷桜」(国指定天然記念物)※